

ゼミの基本方針

「教育活動の有効性を心理学の手法によって実証する実践的研究」を共に考え、サポートします。心理学をベースにして教育活動の有効性を検証する際には、研究対象となる「こころ」をどう捉えて、どう測定するか（どのようにデータを取るのか）が大きなポイントとなります。ゼミでは、それぞれのゼミ生の研究に応じた「こころの測定の仕方」を指導・サポートします。ゼミでの活動を通じて、ゼミ生のみなさんが教師としての自分を見直し、多角的な視点から教育を捉えられるようになってくれればうれしいです。

たけにしゼミの様子

毎年、ゼミ生は3~4人程度です。「チームたけにし」を標榜しています。学年ごとではなく全員で参加します。時には、他のゼミに所属する人や、大学院を修了生して現場に戻っている人なども参加することがあるオープンなゼミです。週1回のゼミでは、各院生が自分の研究内容や進捗状況、あるいは研究で悩んでいること相談したいことを報告し、それに対して全員があれこれ知恵を出し合います。校種の違う院生から全く新しい視点をもたらえたり、同じ悩みを抱える学校現場からのアイデアがでたりは、しょっちゅうです。

機会があるとチームで揃って車をとばして、ひとりのゼミ生さんの学校へ訪問したりもします。例えば、鳥取県で小学校の学習発表会を見学したり、静岡県でのコミュニティ・スクールの熟議をサポートしたり。で、そのついでにカニやら金目鯛やらのご当地グルメに遭遇するというわけです。また、研究を離れて現場の悩みを語り合ったり（悩みを笑い飛ばしたり）、趣味の話（日本酒、漫画、グルメ等々）で盛り上がったりと、笑いが絶えないゼミ時間です。

過去のゼミ生の研究テーマ(一部)

- ・集団決定時の手続き的公正経験が児童の学級アイデンティティと向集団的態度におよぼす効果
- ・小中学校における友達や先生からの被受容感が関係自尊心に及ぼす影響についての一考察
- ・思考する力が伸びる学習プログラムの開発と効果性の検討
- ・小学生の内的他者意識を育成する研究—他者を想像する授業の試み—
- ・教師の生き方が学級における児童の向集団性に及ぼす影響
- ・学級担任のオーセンティックな行動が児童に及ぼす影響
- ・地域とともにある学校づくりに向けて—住民及び教職員の意識改革—
- ・「地域の学びの伴走者」を介して地域資源を活かす学習が児童の向集団的態度に及ぼす効果

